

# 災害をわが身のことと考える 土砂災害・洪水に備える

日頃から、災害に備えてどのような準備が必要か、災害が起きたときにはどのように行動したらよいかなど、適切な知識を持って、いざというときのためにしっかりと備えておきましょう。

問い合わせは、安全安心課防災係（☎内線462）へ。

今年7月、西日本を中心に

多くの地域で、豪雨による甚大な人的・物的被害が発生しました。住み慣れた家が損壊するなど、今もなお避難生活を余儀なくされている多くの人があります。

近年では、局地的豪雨や台風の大規模化などもあり、土砂災害や洪水は、「いつ」「どこで」起こるか分かりません。

## 増加する集中豪雨

平成26年8月に広島県で土砂災害、平成27年9月に茨城県で洪水被害、平成28年8月に岩手県で土砂災害、平成29年7月には、九州北部豪雨被害、今年7月には西日本を中心に多くの地域で洪水や土砂災害などが発生しました。毎年のように各地で大規模な水

害が発生しています。

これらの原因の一つとして、大雨の増加があります。台風による大雨や局地的に降る強い雨の発生回数が、全国的に増えていきます。

## 事前の準備

### ●防災・気象情報の収集

災害のときは自分の身の安全を確保し、テレビ（データ放送）やラジオなどからの気象情報や避難情報に注意しましょう。市では、災害の危険が迫ったときに避難勧告などを発令して避難を呼びかけます。主な伝達手段は次のとおりです。

- ・緊急速報メール
- ・桐生ふれあいメール
- ・防災ラジオ
- ・防災行政無線
- ・アラート（テレビのデー

タ放送など）

- ・市ホームページ
- ・自治組織
- ・自主防災組織
- ・広報車

### ●地域の危険箇所や避難場所、避難経路の確認

地震や洪水、土砂災害など、災害の種類によって避難場所が変わる地域があります。事前に住んでいる地域の危険箇所や避難場所、避難経路を確認しましょう。

また、避難場所となる公民館や学校など公共施設のほか、自宅から近くでより安全な場所や、地域で定める避難場所を確認しておきましょう。

### ●非常持ち出し品や家庭内の備蓄品の準備

持ち出し品は、避難場所までの距離などを考え、持って避難できるだけの必要量にしましょう。

家庭における食料や水などの備蓄品は、3日分程度を目安としましょう。

### 水平避難（立ち退き避難）

風水害などの災害による人的被害に遭わないためには「早めの避難」がとても重要です。また、土砂災害警戒区域や浸水想定区域に住んでいる人は、その区域の外にある安全な場所へ移動する水平避

難（立ち退き避難）が原則です。すでに道路が冠水しているなど、移動に危険が伴う場合には、無理に避難場所まで避難せず、自宅を含めて、がけや沢から少しでも離れた隣の建物の上階に待避してください。

いざというときの対応を一人ひとりが状況に応じて自ら判断し、適切な行動をとりましょう。

## おねがいカード



災害時には障害者など特別な支援が必要な人がいます。支援が必要と思われる人が、おねがいカードを持っている場合は、そのカードを見て適切な支援をお願いします。

おねがいカードは、災害時に適切な支援が受けられるよう、あらかじめできないことや支援して欲しいこと、障害の状況、連絡先などを記入しておくことができます。

希望する人は、市役所1階の福祉課へお越しください。問い合わせは、福祉課障害福祉係（☎内線266）へ。



## 土砂災害の前ぶれ（予兆現象）に注意しましょう

土砂災害の危険性の高い場所に住んでいる人で、下の表のような状況を確認した場合は、適切な避難行動を始めてください。

土石流の予兆現象	<ul style="list-style-type: none"> <li>急に川の水が濁り、流木が混じり始める</li> <li>雨が降り続けているのに川の水位が下がる</li> <li>立ち木が裂ける音や石がぶつかり合う音が聞こえる</li> </ul>
地すべりの予兆現象	<ul style="list-style-type: none"> <li>地面に亀裂や段差、陥没が発生する</li> <li>がけや斜面から水が噴き出す</li> <li>井戸や沢の水が濁る</li> <li>樹木が傾く</li> </ul>
がけ崩れの予兆現象	<ul style="list-style-type: none"> <li>がけに割れ目ができる</li> <li>がけから小石がパラパラと落ちてくる</li> <li>がけから水が湧き出る</li> <li>湧水が濁ったり、止まったりする</li> <li>地鳴りがする</li> </ul>

土砂災害ハザードマップは、がけ崩れなど土砂災害が発生する危険性の高い場所や避難場所・避難所の位置を地図上に示すとともに、気象情報や災害情報の伝達方法などについて掲載したものです。

土砂災害から生命を守るため、土砂災害ハザードマップで事前にお住まいの地域の危険な場所や避難所などを確認し、危険が迫った際にはいち早く避難ができるよう、日頃

## 土砂災害ハザードマップを確認しましょう



から備えておきましょう。土砂災害ハザードマップは市ホームページにあります。問い合わせは、安全安心課防災係（☎内線462）へ。

## 雨の降り方と雨量に注意しましょう

雨の強さを知り、雨量に注意することで、事前に災害発生の危険性を知ることができます。雨に関する正しい知識を持ち、日頃から災害に備えましょう。

雨の強さ (予報用語、1時間雨量)	人への影響など
やや強い雨 10～20 mm	・地面からの跳ね返りで傘をさしていても足元が濡れる
強い雨 20～30 mm	・傘をさしていても濡れる ・車のワイパーを速くしても見にくい
激しい雨 30～50 mm	・道路が川のようになる
非常に激しい雨 50～80 mm	・傘は全く役に立たない ・水しぶきであたり一面が白っぽくなり視界が悪くなる
猛烈な雨 80 mm以上	・車の運転は危険

## 緊急告知FMラジオ (防災ラジオ)

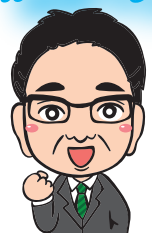
災害時の情報伝達手段の一つとして、「緊急告知FMラジオ」(防災ラジオ)を1台1000円で配布しています。

このラジオは、電源が入っていない状態でも、緊急情報の信号を受信して、自動的に最大音量で流します。配布場所は、市役所3階の安全安心課、新里・黒保根支所、境野・広沢・梅田・相生・川内・菱公民館



です。問い合わせは、安全安心課（☎内線415）へ。

こんにちは！  
市長です



7月の台風7号や梅雨前線の影響による記録的な豪雨で、西日本を中心に大きな被害が発生しました。

市では、「大規模災害時の相互応援に関する協定」に基づき、今回の豪雨で甚大な被害を受けた岡山県倉敷市に復旧・復興支援のため職員を派遣しています。

被災された皆様には、心からお見舞いを申し上げるとともに倉敷市をはじめ被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

近年では、局地的豪雨や台風の大型化などもあり、災害は、いつ、どこで、起こるかわかりません。ご家庭でも、最新の気象情報を確認するとともに、地域の危険箇所や避難場所・避難経路の把握、非常持ち出し品や備蓄品の準備など日頃からの備えをお願いします。

これからも市民の皆様と防災について考え、対策に取り組んでまいります。